

メビウスのレポート

特定非営利活動法人メビウス千葉 活動報告 After Spring 号 2019年11月06日発行



メビウス千葉会員の皆さま、こんにちは。日頃より私たちの活動に対するご理解、サポート、見守り、その他暖かいご支援をお寄せいただき、誠にありがとうございます。

以前からお伝えしている通り、メビウス千葉のホームページが開設され、以下のURLにて随時更新中となっております。是非ともお立ち寄りください。

【[http:// mebius-chiba.org](http://mebius-chiba.org)】

仕事と維持作業の両立。

メビウス千葉は、条件反射制御法の維持作業を柱とした支援を行っています。会員の皆様はご存じと思いますが、キーワードアクション（負の刺激、おまじない等とも呼びます）、疑似、想像などのプログラムを退院後も続けて行かなくてはなりません。この維持作業を怠ると、望まない行動を促進する神経活動が回復し、せっかく入院して低減させた欲求が元のレベルに戻ってしまいます。そうなれば再発、再入院、あるいは刑事事件に至る可能性もあります。

ところが、それだけ重要とわかりきっている維持作業ですが、条件反射制御法を行うことが仕事ともいえる入院生活から、退院後の日常生活の中で維持作業を続けていくことは、簡単のように見えて難しいのです。

キーワードアクションはいつでも、どこでもできるため、比較的続けやすいように思います。キーワードアクションを日常の様々な環境で行うことは、その環境が望まない行動を行うことができないという条件付け（負の刺激）になるため、続ければ続けるほど強力な効果を得られます。

ここで注意しなければならないことは、入院中は絶対にその行動（飲酒や違法薬物の摂取、痴漢行為、万引きなど）はできないのですが、退院後はやろうと思えばできてしまうということです。せっかくキーワードアクションを行っていても、その後対象行為に及んでしまえば「できない」という条件付けが崩れてしまい、効果が得られなくなってしまいます。キーワードアクションは他人から与えられた「作業」ではなく、いざという時に確実に使えるよう、道具として自ら「鍛え上げ」続けなければならないのです。

疑似は人によって使う道具が異なります。薬物の場合は偽の注射器など、アルコールの場合は自分がよく飲んでいた銘柄の空き缶や空き瓶などを使用します。疑似は他人に見られたくない人も多いため、基本的に単独で行っています。万引きなどの場合は疑似に職員が同伴する場合もあり、その場合は確実に回数を確認できる利点があります。

想像は自分が望ましくない行動を行った典型的な一日の様子を想像で追体験します。疑似が行動の連鎖の最終部分とすれば、想像は生活全体の刺激を網羅し、その後に生理的報酬が得られないという体験です。これによってより確実に欲求を低減させることができます。想像の中で見えたものなどをノートに書き出すため、ノートを見れば想像を行ったかが分かります。

この維持作業を繰り返すと、慣れからか飽きてきたり、だんだん億劫になっていきます。初めの頃は楽しく維持を行うことができますが、一年、二年も経てばもううんざり、やりたくない、適当にやっぴおおうという感じになってきます。それこそが条件反射制御法の効果で、対象行為に興味がなくなってきた証拠なのですが…。

加えて、退院後の生活に慣れると日中活動や仕事など、他の活動に興味が移ってきます。望ましくない行動で生理的報酬が得られず、仕事や勉強など望ましい行動で生理的報酬を得ていく、まさに喜ばしいことです。維持作業を何度かサボってしまったところで即座に効果がなくなるわけではありません。維持作業を怠ってしまった、しかし再発はしていないし、欲求はそれほど強くはない。大丈夫だろう…。そうしているうちに、いつしか維持作業の回数が減っていくのです。

先日、メビウスでの生活中に残念ながら再犯に至ってしまった寮生の裁判を傍聴に行きました。仕事が忙しく、夜も疲れていて維持作業を怠ってしまったとのことでした。

ミーティングで回数票のチェックは行っていますが、回数票はいくらでも数字だけ増やすことができます。本人の自主性のみならず、実際に行っているところを確認するような体制、仕組み作りが必要であり、今後の課題となっています。

新たな活動に、積極的に取り組む寮生達。

メビウス動静報告



4月

就労継続支援 B 型事業所の開設が延期になる中、日中活動の場として既存の就労継続支援 B 型作業所の利用を希望する寮生が、事業所の見学・体験を行いました。メビウス内での作業のほか、必要に応じて就労継続支援、就労移行支援、デイケアなど、他の福祉サービスとの連携を行っています。

一方、退院したばかりの寮生の飲酒があったほか、食堂内で食品へのいたずら、事務所の鍵が焦がされるなどの被害があり、犯人とみられる寮生が再入院しました。

5月

GW はミーティングがなく、寮生が顔を合わせる機会も少なかったのですが、GW 明けのミーティングに S さんが現れず、飲酒により居室で倒れているところを発見され、救急搬送となりました。

早期発見がされなかったことが悔やまれます。飲酒が原因とみられますが、部屋に空き缶や空き瓶はなく、他の寮生が片付けさせられていたとの情報もあります。

飲酒が疑われるとの情報が他の寮生から寄せられることもありますが、本人が飲酒を否定する場合、尿検査のように後で確認することができないため、飲酒の事実をその場で把握することが難しい現状があります。さらに、他の寮生が飲酒を知っていて隠匿に協力することがあります。ときには告げ口しないように脅迫されていたり、告げ口に対して報復がある場合もあり、情報をどのように扱うか慎重な対応が求められます。

6月

5月末で3名が退寮し、それぞれの生活を始めました。1名は実家に帰り復職したようですが、うち2名は退寮し入籍しました。寮内の性行為で妊娠したとみられ、サポートの継続が必要でしたが、本人たちは自分たちの自由な暮らしを望んでいたようです。メビウスの生活には拘束力がないため、退寮を止めることはできませんでしたが、退寮後も必要に応じてサポートを行います。

B 型事業所に通い始めた寮生の影響を受け、他 2 名が同事業所の見学を行い、障害福祉サービスの申請を行いました。

※ 6月末日時点での在籍者

男性 15名 女性 8名 (うち入院者4名を含む) 在籍総数 23名

ミニトマトの収穫作業を始めました。

メビウス千葉では、2017年4月から2年間、パクチーの選別、包装作業を行ってきました。パクチーブームが下火になってきたこともあり、請負先のマイベジタブルから、新たにミニトマトの収穫作業の依頼を受けました。

ビニールハウス内で、2人1組となり、品種によって収穫用のハサミを使ったり、手を使いながら収穫作業を行っていきます。パクチーと同じく、ちぎってしまうと元に戻らないため、寮生たちは初めての作業に緊張しながら慎重に収穫を行いました。

赤い実の収穫はできますが、オレンジ色の実ほどの程度まで収穫ができるのか判断に迷います。マイベジタブルの責任者の方が丁寧に教えてくださり、正確さやスピードが上がっています。天気の良い日はハウス内が39℃近くなり、水分補給をこまめに行いながら作業を行いました。

パクチーの選別作業は冷房が効いた選果場での作業ですが、ハウス内の収穫作業は決められた区画内を自由に動けるほか、たくさん採れると収穫の達成感もあり、汗を流しながらも楽しく作業を行っています。



作業後の楽しみは、みんなで蕎麦屋に行くことです。パクチー作業が午後にまたがるため通い始めた蕎麦屋ですが、ミニトマトの収穫は午前中で終わります。メンバーの結束を深める意味もあり、作業後の蕎麦を目当てに参加する人もいます。作業中から今日はどの蕎麦を食べようかと話していることもあります。

さて、就労継続支援B型の作業所は、パクチーの作業を安定して請け負うことができる前提で設立を検討していました。ミニトマトの収穫は施設外就労となるため、事業所内で行うことは難しく、B型事業所の立ち上げを見送る一つの要因となっています。事業所の場所が決まれば、収穫したミニトマトを事業所に運び、事業所内で選別、計量、パック詰めなどを行うことも可能です。

事業所の物件探しが予想以上に難航したこともあり、開設が延期となっていますが、メビウス千葉の事業計画としてこれからも就労継続支援B型作業所の設立は検討していく所存です。

今後とも皆様の変わらぬご理解、ご支援を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。

UVレジンを使用したアクセサリ制作。～ハンドクラフト活動～

以前この紙面でもご紹介した、様々な絵や模様を石鹸などの日用品に転写する「デコパーージュ」作品の制作のほか、UVレジンを使用したストラップなどのアクセサリ制作を始めました。

UVレジンとは、糊状のレジン液を着色して様々な型や枠に流し込み、紫外線(UV)ライトで硬化させることにより、透明感のあるアクリルのアクセサリが手軽に制作できるというものです。

フリーマーケットに出店した際、試作したストラップやキーホルダーを陳列したところ、なかなか好評だったため、現在はデコパーージュよりもUVレジンの方に力を入れています。寮生たちはドライフラワーやビ

ーズ、ラメパウダーなど思い思いの素材を組み合わせながらアクセサリ制作を行っています。さらに、このような活動が寮生たちのコミュニケーションの場や、気分転換になっているようです。

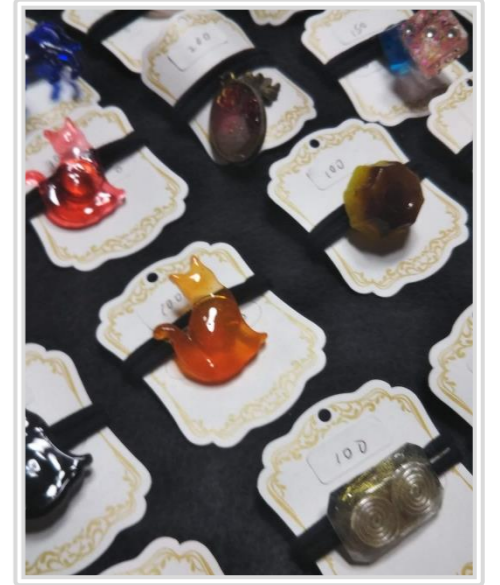
就労支援としての制作、販売よりも作業療法に近い環境となっています。しかし、お客様から代金を頂く以上手を抜くわけには行きません。材料を大切にし、細かい仕上げなど「心を込めて丁寧に」をモットーに制作を行っています。

中には細かい作業やオリジナルの作品を考えるのが苦手な寮生もいますが、他の寮生の作品を参考にしたり、寮生同士で教え合う姿も見られます。

作品の売り上げは、材料の購入など活動資金に充てられます。現状、作業代として工賃を出すには至っていません。

作品はフリーマーケットや委託販売の他、minne というサイトで購入することができます。

【<https://minne.com/@mebius-385>】



グループ活動を通じて得られるもの。

グループ活動と言えば、皆様はどのような活動を思い浮かべるでしょうか。病院での専門的なSSTや余暇的なレクリエーション、就労支援事業所の訓練、自助グループや家族会のように特定の課題を抱えた人たちの情報交換会や勉強会、季節の地域行事など、人は常に何かの集団(社会)に所属し、その中で期待や葛藤を抱えながら生活しています。

グループワークは歴史上、ヨーロッパやアメリカで19世紀後半ごろ貧困など地域問題の悪化から、社会改良や民主主義を担うことのできる市民を育てる教育的な活動(社会諸目標達成モデル)として始まり、第二次世界大戦を経て、リスクの高い人びと(精神障害者や犯罪加害者など)を対象とした医学的な診断をもとに、個々の処遇目標を設定した治療モデルなどへと発展しています。

また、自助グループという言葉は、正確にはどこの機関にも所属せず、専門家からも独立した当事者の自発的な活動を指すようです。メビウス千葉での生活は、専門的な機関や支援者のサポートを受けながら、目標を持って集団生活を送ります。その中で、似たような課題を抱えながらも一人ひとり違うことに気付かされます。

例えば、当施設が活動の基礎としている朝のミーティングでは、司会が「今日の言葉」を読み、ひとりずつ感想を述べます。同じ言葉でも、人によって、あるいは今日の気分によって感想が変わります。そういう考え方もあるんだ、と気づくこともあります。

ミーティングで話す今日の目標も、一日を穏やかに過ごすことから、仕事に精を出すことなど、望ましい状況が何なのかは一人ひとり違います。その中で、「自分はこうならなくてはならない」「他人がこうあって欲しい」というこだわりが、別の角度から見られるようになっていきます。ときには反面教師となり、「あの人のようになりたい」と思うこともあるでしょう。しかし、それも良い刺激となります。

人はひとりでは生きていけません。誰かに必要とされたり、役に立ったと思えることがあれば、自尊心の回復に繋がります。それは、支援者が意図的に「援助する」ことによって経験できるものではない部分があります。そこに、どうなるか分からない難しさと、思いがけない変化の喜び、発見があるように思えます。

人と人が出会うところに、成長と変化の可能性があるので。